

JIA 長野県クラブ 22

社団法人 新日本建築家協会

1996. 4. 1



2月28日、松本市内のホテルで行われた第4回文化講演会。'95 J I A 新人賞の片山和俊(左)、團紀彦(中央)の両氏が講演した。参加者90名。(写真は講演後に会場からの質問に答える両氏。右は進行役の松下重雄副代表)



私にとって J I A とは

副代表
出澤 潔

建築家の職能確立と、新しい時代の建築家像を求めて J I A が設立され9年が過ぎようとしています。そして、J I A 長野県クラブに参加させていただき諸先生方のご指導と多くの友人からの刺激を受け6年が経ちました。J I A の目指すものが冒頭に掲げたことであることは明らかなのですが、そのためにどうしたらよいのかという具体的なイメージを持たなかったというのが私の正直な感想でした。

今、私達のまわりから建築が失われつつあるように私は感じてなりません。これも時代の流れ、時代のなせる業と思わなくてはいけないのでしょうか。建築はその地域の文化のあらわれであると私は考えています。私達は先人の残した生活や思想などの伝統を受け継ぎ、発展させる責任があります。そして、私達の生きた時が後世の人達に感謝されるような時代にしなければならない責任があると思っています。そのために自分を整え、自分達のステージを整えるために J I A があるのだと私は考えています。外に向かった積極的な活動も大切ですが、自分自身の建築への関わり方をどう考えるかということももっと大切なことではないかと私は思っています。私達が一市民としてそれぞれの地域社会から愛され、求められる時に J I A の目指すものが実現していることでしょう。



専業と兼業の境界

副代表
関 邦 則

徐々にはいえ公共建築物の設計発注がコンペやプロポーザル等の方式に変わりつつある。低報酬のコンペ、ブラックボックスでコンペまがいの泥臭いプロポーザルが横行している現状において、こうした方式の確立は「長く辛い道」と言わざるを得ないが、最近はこれに加えて設計兼業者の設計参加も多く見られるようになった。

新しい建築イメージや特殊技術を要する大空間建築等においては世界に誇る施工技術に協力を求めるのも納得がいくが、ただ単にローコストと設計費用の節減を目的としたと思われるような安易なものまで登場するようになった。周到的な検討や一定のガイドラインもないままに、なし崩し的に専業設計と兼業設計の境界が取り外されつつある。原因の一部は専業設計者側の努力不足・勉強不足や受注に対する甘え等にもあろう。しかし、だからと言って機能の確保と経済バランスの実現に翻弄され、設計施工の「裏技」に期待し、本来建築に求められている時代の「文明」や地域の「文化」を切り捨てることによって、これからの「建築」がどうなるのか。専業設計の立場にある私たちは、これまでの自らの仕事について反省するとともに、改めて自身のつくる建築が、これからの地域文化を切り開いていくものであるという自負をもって研鑽していく必要があると、感じている昨今である。

北信



司馬先生を悼んで

足利 憲 孝
（鎌宮下設計アトリエ）

『編集担当の君島さんには、お約束しておきながら、
／切に間に合わず、御迷惑をお掛け致しました。ゴメン
ナサイ!!』

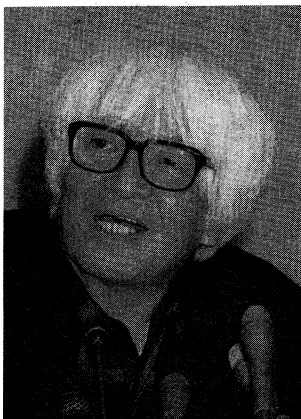
世の文筆家もこのように切迫詰まって仕事をしている
のか？と作者の心境を味わった気分です。

もっとも、建築でも納期に追われるのは常ですが…。

昔、ある方に小説の行間を表現できる建築を創ってみ
たらと、アドバイスされたことがある。

愚生の私には、まだまだ建築のいろはを勉強中の身で
もあり、どう表現するかの方途を知らない。

しかし、専門だけ究めることの危険性、幅広い教養か
ら生まれる独創性が必要であるとの示唆、と受け取めて
いる。



往日、司馬遼太郎先生が
逝去され、また一人偉人を
失くした想いである。

学生の頃、歴史に疎い私
は、山岡荘八先生、柴田錬三
郎先生などと較べて、わか
りやすい言葉で、ストレート
に主人公の考え方が理解
できる小説家として、愛読
させて頂いた。

また、生涯一書生を貫か

れた姿勢は立派だと思う。

依頼の文章を書くことさえ、ままたらない私が、こん
なことを言うのはおこがましいが。

文筆家が人生の教えを説く人とする、建築家は空間
の美を伝える人といえるだろうか。

愛読書に、吉川英治先生の三国志がある。読み返す度
に、壮大なスケールとロマンを感じる。

一人でも二人でも、自分の携わった作品が、何かしら
の感動を与えることができれば、無上の幸せです。

最後に司馬遼太郎先生の追悼と、日々の自戒を込めて、
稚拙な文章を締め括ります。

東信



ちょっと変わった趣味？

池田 端 夫
池田建築工房

J I A長野県クラブの会員で高校時代の同級生が東信
地域に私も含め4人いる。この会報の原稿を最初に依頼
されたのが上田の中沢氏。「オーナーがOBだったから
なんて言われぬ様真面目に書こう」なんて言っておきな
がら、いきなり「ホールインワン」。後に続くものは大
変…？なんて言っていられない。さあ、打とう！

ところで、テーマがないのは困るが、私のちょっと変
わった趣味を書いてみよう。

生来、趣味をもったことのない？私だが、人に尋ねら
れたり、履歴書に書かなければならない時などは、「あ
りません」ともいかないので「読書」、「音楽鑑賞」、「ス
ポーツ全般」…など、当たり障りのない程度であった。
しかし、2～3年前より見よう見まねで稲作、家庭野菜
などの栽培を始めた。（先祖より受け継いだ田畑が800坪
程度あり、以前は母親が細々とやったり、貸したりして
いた）いざ始めてみるとなかなか面白い。解らない事は
隣で耕作しているおじさん、おばさんに聞いたりもした。
収穫する喜びもさることながら、育てる時もまた楽しい。
昨今の夏は雨不足で「水やり」も大変と思う時もあるが、
徐々に育っていく苗などを見ると、仕事の忙しさもふと
忘れる事もある。

昨年10月よりCADを使い始めた。5ヶ月過ぎた今で
はドラフターはまず使わない。以前に比べ目が非常に疲
れる。今年は、新食糧法が施行されたにもかかわらず、
稲作の減反割当ては昨年以上となりそうだ。今、水田の
150坪程度を埋立てている。これで畑が増える。その分
家庭野菜も多く栽培できる訳である。春からは、平日の
疲れた目を休めるためにも、休日は大地をじっと見つめ
てみたいと思う昨今であります。

今年もはや3月。松任谷由実の「春よ来い！／＼」のメロ
ディーが聞こえて来そうだ。

（お願い：私の趣味を決してイモなどと言わないでくだ
さい）

中信



「礎の会」

場々洋介
㈱フジ設計

最近の国勢調査がまとまった。穂高町は5年間で人口が11.5%、その前の5年間では7%と最近では異常ともいえる増加となっている。開発が進み、このままでは穂高町はだめになってしまうのでは、と嘆く人が多い。

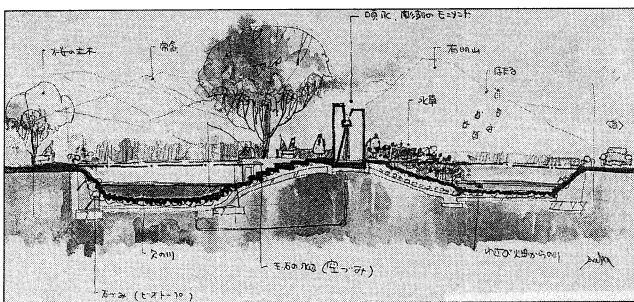
昨年であるが、穂高町の有志でまちづくりを考える「礎の会」を発足した。幸か不幸か士会やJIAなどとは無関係であり、その分会の運営は全くの手弁当である。今年の3月には初めてのシンポジウム「穂高 夢21」を計画している。

そのシンポジウムの中で、水辺環境の提案をする。町並みウォッチングをして再発見したことであるが、実に穂高町は水の豊かなところである。わさび畑の湧水があり、また、農業用の堰もあり、すばらしい。

しかし最近の土木の護岸工事については残念である。土木工事については提案できるチャンスが少ないが、治水という目的にとどまっている。最近の子供たちは、川では遊ばなくなった。

昔、川は上水道でもあったが、今は排水路と化している。ゴミや空カンの多いのにおどろく。

21世紀は環境の時代といわれるが、もっと親水的な水環境づくりがのぞまれる。また、われわれ建築に携わる者が提案できる場所がほしいものだ。



水辺の提案より

南信



水辺の再生と建築

高橋重徳
㈱ローカル建築設計室

いま、諏訪湖を取りまく様々な問題が浮きぼりにされてきている。その一つは、治水がいき過ぎた水辺を昭和30年代の状態に再生しようとする事業が昨年から本格的にスタートしたことである。これまでの諏訪湖は災害から周辺の地域を守るために、治水のみを優先に事業を行ってきた。結果としてコンクリート護岸に囲まれた味気ない景観をつくり出している。

日本の高度成長による経済中心の考え方は、全面的な対立関係にあった自然保護の構図から、お互いに徐々ににじり寄り、その矛盾や課題を解決してゆく方向に変わってきたのである。そうした時代背景とともに、地域に住む住民の意識も変わり、自然と共生しようとする意識がより強く求められてきたのである。自然を大切にすることが自分たちの生命体を守り、経済的保障をもたらす、より快適に暮らす最も基本的な必須条件だと、みんなが気付き始めたあらわれであろう。

これまでも諏訪湖浄化が盛んに叫ばれてきたし、今も盛んにその努力は続けられている。人間のエゴが湖を汚染してきた。幸いなことに、周辺の下水道整備に代表される事業や意識の変革により、水質は過栄養な状態から通常の富栄養な状態に抜け出し、回復の過程にあるといわれ、再生への努力を続けることに将来的に大きな希望が出てきた。

私たちは、これまで湖を資源としてしか考えず、人間の利用を最優先にしてきたことを大いに反省し、自然との共生を考えた生き方をもう一度考慮する必要があるといえるのではないのでしょうか。

これから進められる水辺の修復や、水生生物の再生事業も、人間本意の考えから、さらにもっと踏み込んだ生物の視点に近づいた考え方や行動に従って努力していくべきではないのでしょうか。

私達建築に携わる者にとって特にその責任は重い。周辺の環境を考えたもっとバランス感覚のある感性で新しい創造活動をしたいものである。そうした行動を幅広く実行することから、建築家の社会的地位も確立できていくのではないのでしょうか。

クラブインサイド

第7回理事会と新年会 佐藤友治

2月6日、第7回理事会を長野市の山王共済会館にて開催し、出席理事により次の案件を討議した。

(仮称)「信州建築家カタログ」作成について、会員の意志確認を求めてアンケートを行うこととし、その素案を次回に協議することとした。また、長野県学生卒業設計コンクール'96の日程を確認、副賞は検討課題とした。平成8年度通常総会の関係では、記念講演をJIA新会長に内定の穂積信夫氏に依頼することに。その他各委員会報告、会員動向、今後の日程等協議して閉会した。引き続き新年会は来賓5名をお迎えし、30余名の出席を得て盛会に開催した。

「技術交流会」に参加して 小野沢秀世

久々の技術交流会ではありましたが、(株)ダイフレックスさんにより「フラットルーフの設計計画と新防水工法について」という題目で講演が行われました。その道の権威者である鶴田裕氏と宮崎氏によって説明が進みました。防水技術も進化すると、見た目は薄くとも屋根材と床材を兼ねた相当に強固な材料となることを知りました。知識が一つ増えたことを喜んでおります。次回は所員の皆様のご参加を望みます。

第4回文化講演会 片倉隆幸

第4回文化講演会は、JIA新人賞作家の片山和俊氏、團紀彦氏を講師にお招きして開催されました。片山氏の場所性と風土、居ごちの良さという、生活空間の延長としての空間づくりは、大変わかりやすく、環境への豊かな思いやりに感動しました。

また、團氏の、大変ゲシュタルト質の高い空間づくりは、同世代の建築家として共感するところが多く、お二人の対照的な表現の中に、社会への建築家としての主張のあり方を確信しました。日頃感じているのですが、行政ももっとトータルな思考で物事を見つめてほしいものです。

第8回理事会(2月28日) 高橋重徳

前回の理事会から懸案事項の「(仮称)信州建築家カタログ」について、会員に対するアンケートの素案が特別委員会の倉橋委員長より示され、内容について議論しました。再度、特別委員会で検討のうえ素案を作り次回理事会で協議することになりました。

8年度通常総会及び記念講演会について、講師にJIA新会長(内定)穂積信夫氏をお招きして、長野市「山王共済会館」において6月11日開催することを確認しました。

— 新入会員紹介 —

正会員

益田誠一(株)大建設計長野事務所 長野市

クラブアウトサイド

支部役員会、地域幹事連絡会議

出澤 潔

支部役員会および地域幹事連絡会議に出席させていただくようになって1年になろうとしています。

役員会では苦しい財政に関連し、委員会活動・部会活動をどう効果的に発展させたらよいか、建築家の日の事業をどのようにするか等々について提案されています。

地域幹事連絡会議では「地域会」に関して数回にわたって各地域クラブの意見交換を行っております。

支部業務委員会 関 邦 則

1月30日(火)に建築家会館にて第3回委員会が開催され、「良い建築・良い設計者を求めるために」というプロポーザル促進冊子や、「実施設計図から施工図への展開」という新冊子についての報告があった。

ご注意を、印紙税の取扱の改定で施工図等への「承認」をすると課税文書となり印紙税を納めることになる。「承認」等の文言は入れず「受領印」と表示し監理者が押印して施工者に返却すると該当しなくなる。

第11回松本景観フォーラム

丸山幸弘

3月2日あがたの森文化会館にて市民参加による「街づくりフォーラム」が行われました。関係者の連日連夜の準備が実を結び「街を創るのはあなたです」というテーマ通りのフォーラムとなりました。しかし、提案としては少し弱い気がしたのは、私だけでしょうか。

作品募集中！総会で第2回会員作品展

関 邦 則

今年の総会は6月11日(火)に長野市の山王共済会館において開催の予定です。今から予定にいらして出席していただきたいと思います。例年の通り学生卒業設計コンクールの表彰式と、JIA新会長に内定している穂積信夫早稲田大学名誉教授をお招きしての講演会も企画しています。

また昨年好評だった会員作品展も継続したいと考えています。写真やスケッチのパネル、模型等なんでも結構です。奮って応募してください。お問合わせは事務局までお願いいたします。



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 須田考雄
発行所 JIA長野県クラブ
長野市大字南長野野字
宮東426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303

作 成 新建新聞社